



泌尿器科

後期研修

プログラムの目的と特徴

京都大学泌尿器科をプログラムの管理および実施の拠点（センター病院）とし、それに複数の参加施設を加えた専門医教育機構がプログラムを実施する。4年間の研修期間のうち、少なくとも1年以上は京都大学医学部附属病院での研修を必修とする。プログラムの最終年度には、日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科専門医の資格を得ることが目的であるが、更に本プログラムの終了認定が国内トップクラスの泌尿器科専門医であるという評価となるような充実したプログラムを目指している。

診療科の主な症例と症例数

尿路生殖器癌 220 例、前立腺肥大症 40 例、腎移植 2-6 例、小児泌尿器 40 例、男性不妊症 15 例

取得できる認定医・専門医

泌尿器科専門医 6 年、泌尿器科指導医 1 1 年、腹腔鏡手術認定医 8 年
他にがん治療認定医、腎移植認定医、小児泌尿器科認定医など

他科研修の可能性

あり（人工腎臓部、外来化学療法部、検査部）

留学の可能性

あり（大学院卒業後、毎年 1-2 名海外留学）

関連大学病院等

宮崎大学、兵庫医科大学、関西医科大学ほか

関連病院での研修

あり。詳細は下記のホームページを参照してください。

<http://www.urology.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

後期研修修了後の進路

大学院または大学病院・関連病院勤務、希望があれば他病院への就職。